

#### 4-12 防災とまちづくり

我々が生活する場所は、当たり前ですが地表に密着しているということで、あらゆるものが地表を基礎にしています。そして、社会の仕組みが高度化していくたびに、人も物も複雑に関係してきます。そのようなところで、自然災害での被害は、対象となったものだけでなく、人的、経済的、社会環境的に広く深い連鎖的な影響が顕在化するようになります。

したがって、まずは居住区域や生産活動範囲を自然災害への抵抗力を増すことを考えていくことが重要です。そのためには、まずは身近で起きた災害を学ぶ必要があります。受験勉強でいうと、志望校の過去問題を研究して、出第の内容やレベルを知る、つまり敵を知るところから始まるのと同じではないかと思います。もちろん、同じ問題は出ないにしても類似のことは予想しておく必要があります。そして、さらなる対策を確実にすることが必須になると考えているのではないのでしょうか。

そのためには、まず地域がどのような災害で安全が脅かされるのかを知ることです。地域には、見えていない災害の素因が潜んでいますので、それを経験や知見から明らかにすることと、経験を当てはめつつ、その対応を応用して備えをしておくということになります。この地域づくりは、理想はあるにしても大事なことはできることをできる範囲でどこなうという実践的な戦略を考えていくべきだと考えています。そのためにも、地域を知ることが一番の基本になるということで、何を知り、何を確認するのかを明確にしてあらゆる機会を実施していく必要があると思います。このような情報は地域の人々との共通の認識にもなり、コミュニティの醸成の促進になっていくことにつながります。このような地域知は、地域の地形や地質、今までの歴史・過去の土地利用の経緯、言い伝え、古文書、地名の由来といったように隠れている地域資源を明らかにする必要があります。加えて、自分の目で、足で観察するというような行動が求められていると思います。それは、危険なものやところ、役に立つもの（人、施設、モノ、情報等）を確認しつつ、改善・改善べきものなどを明らかにして情報を共有していくことをすべきだと考えられます。自然災害に関してのリスクと被害は、内容的にはある程度想定されていますので、要はそれをどう最小化するのかということで、一気に解決可能な方法はないものの、一人一人が意識を変えていくこと、災害への関心を持ち続けるということが重要だということが基本的なベースになります。

それぞれの立場、役割での自助、共助、公助がよくいわれていますが、大事なことはそれぞれの役割を発展させて、つないでいくことが大切で、防災に継続して関心を持ち続ける互助が実践という面で大事なことになると思います。この互助は、コミュニティの大事な要素でもあります。

改めて、地域づくりは、地域への関心と人的資源を活用して、安全・安心・快適に過ごせる環境を作っていくことでもあり、逆にそのようなことを解決しないといけない環境は人的に作ってきた結果でもあるということにもその対応のヒントがあるのかもしれない。